



うすい正一県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

次世代にツケをまわさない対策を!

2月県議会予算委員会に登壇



医療費の増加を懸念して質問する臼井県議

県民1人当たり医療費は25万5千円

千葉市美浜区選出で、県議3期目にして若手議員の中心的な役割を担う臼井正一(うすい・しょういち)県議は、千葉県の新年度予算案を審議する2月県議会の予算委員会で質疑に登壇し、高齢化に伴って増加する一方の医療費について、次世代に重い負担を残さないためにも、医療費の削減に向けて努力するよう警鐘を鳴らしました。

また、臼井県議がプロジェクトチームの座長を務め、1年がかりでまとめられた「いじめ防止対策推進条例」の本会議場での審議では、臼井県議自らが野党議員の質問に対し答弁に立ち、いじめ問題解決に向けて白熱した論戦を展開しました。文教常任委員会では、障害者による車イスバスケットなど、体育施設使用について施設の開放を強く求めました。

臼井委員 医療費の削減の問題に絞ってお尋ねします。わが国の国民医療費は、年々増えてきています。最近のデータでは、平成23年度ですが、国民医療費は38兆5800億円余りで、その半分だったのはいつかと調べると、昭和63年の18兆7500億円でしたから、約23年間で倍増したことになります。

医療費の増加は、人口が増えていく中なら、決して悪いことだけではないのですが、人口減少、少子化の中では大きな課題です。次代を担っていく子供たちが、働く意欲を失うことのないよう、世代間の不公平感を我々の世代で解決していかなければならないと、私は思っています。

そこで伺います。本県の総医療費及び県民一人当たりの医療費の動向はどうか。

保健医療担当部長 平成23年度の千葉県の総医療費は1兆5836億円で、平成20年度の1兆3982億円から1904億円増加しています。

また、平成23年度の県民一人当たりの医療費は、25万5千円で、平成20年度の22万8千円から2万7千円増加しています。

臼井委員 今後の医療費の見通しはどうか。

保健医療担当部長 「第2期千葉県における健康福祉の取り組みと医療費の見通しに関する計画」において、厚生労働省から提供された医療費推計ツールを使用して医療費を推計すると、平成29年度の県の医療費は1兆9581億円となり、平成23年度から約3700億円の増加となります。

生活習慣病の予防啓発

臼井委員 医療費の適正化に向けて、どのような取り組みをしているのか。

保健医療担当部長 県は「健康ちば21」や「千葉県保健医療計画」等の各種計画の取り組みを推進することにより、医療費適正化を図ることにしています。

具体的には、生活習慣病の発症と重症化予防のための運動習慣や食生活改善に

また、急性期から回復期在宅に至るまでの医療機関等の役割分担を進めるため、地域医療連携パスの普及や、後発医薬品の安心使用促進に取り組んでいます。

統合医療への認識尋ね

臼井委員 私は、県議会員になって以来、統合医療に注目してまいりました。

昨年11月14日に統合医療推進議員連盟が設立されたということですが、国においても、真剣にこの統合医療の間

題に着手し始めたようです。知事は、統合医療についてどう認識しているのか。

森田知事 統合医療については、多種多様な療法が存在し、現時点では、全体として科学的根拠が十分に得られていない状況とは言えず、現在国では、統合医療の各療法について、安全性・有効性に関する科学的知見を集めるとともに、これらをもとにして必要な情報を発信するための取り組みをしているところと聞いています。

要望 西洋医療、西洋医学をしっかりと中心に置く中での統合医療を、ぜひ関係者とともに、政治家として知事に進めていただきたい。

県政や千葉市美浜区のご相談、ご意見を聞かせてください

うすい正一 県議事務所

TEL 043-244-0033
FAX 043-244-2200

〒261-0004 千葉市美浜区高洲1-9-7-2

メールもお気軽に、ホームページも開設しています。

E-mail usui@shoichi.info URL=<http://www.shoichi.info>

「いじめ防止条例」成立に奔走!

本会議場で野党と白熱の論戦

自民党県議会の教育研究会いじめ問題対策プロジェクトチーム(PT)は、2月県議会に千葉県独自の「いじめ防止対策推進条例」を、議員自らが提案者となる議員発議案として上程し、賛成多数で可決・成立させました。白井正一県議はこのいじめ問題PTで座長として条例案のとりまとめに奔走するとともに、本会議場での質疑では、野党からの質問に対し、議員提案の趣旨を堂々と答弁し、論客ぶりを発揮しました。

強調するやり方は、子どもと教員の信頼関係を壊し、かえって悪影響を及ぼすのではないかと。

白井議員 子どもと教員が信頼関係を適切につくることは、いじめ問題以前に大変重要なことです。その信頼関係にのっとり、学校教育は推進されていくべきと認識しております。

人間関係に起因する「いじめ」の防止に、道徳教育を中心にするのは、すでに破綻しつつあるのではないかと。

白井議員 いじめを防止するための対策は、何か一つで足りるものではありません。いろいろな対策を組み合わせることが必要だと考えており、中でも道徳教育は、規範意識や社会性を身につけていく上で大変重要だと認識しています。

千葉県の「いじめ防止対策推進条例」は、白井県議ら同党のPTが、いじめ問題の発端となった滋賀県大津市の中学生自殺事件などを契機に、滋賀県を視察に訪れるなどし、1年がかりで検討を重ねてきたものです。条例は全32条で構成され、県の責務を明文化し、いじめへの迅速かつ適切な対応などを定めたものです。

問い 「いじめ防止対策推進法」について、いじめ問題は、子どもの内面から理解してこそ、解決できると思うがどうか。

白井議員 いじめの解決には、愛情や子どもの内面から解決することが大切とのご指摘ですが、それは当然のことであると私たちも考えており、この条例を上程したものです。

問い 子どもの具体的な

問い 条例を制定するといふなら、その基本点について伺う。子どもを預かる以上、学校や教育行政には、子どもに対する安全配慮義務がある。これをしっかりと明記すべきではないか。

基本理念や県の責務

問い 子どもの心は深く傾ける余裕が奪われている。こういう実態をどう認識しているのか。

白井議員 子供たちが安心安全な学校生活を送ることができること、何よりもいじめから子供たちを守るべきことが重要であると考える。その基本理念や県の責務等に反映させています。

問い 教師の多忙化は深刻。子どもの心の声に耳を傾ける余裕が奪われている。こういう実態をどう認識しているのか。

白井議員 教師の多忙化を解消していくことは、教育の質を高める

問い 「懲戒」をことさら

白井議員 子どもと教員が信頼関係を適切につくることは、いじめ問題以前に大変重要なことです。その信頼関係にのっとり、学校教育は推進されていくべきと認識しております。

白井議員 いじめを防止するための対策は、何か一つで足りるものではありません。いろいろな対策を組み合わせることが必要だと考えており、中でも道徳教育は、規範意識や社会性を身につけていく上で大変重要だと認識しています。

千葉県の「いじめ防止対策推進条例」は、白井県議ら同党のPTが、いじめ問題の発端となった滋賀県大津市の中学生自殺事件などを契機に、滋賀県を視察に訪れるなどし、1年がかりで検討を重ねてきたものです。条例は全32条で構成され、県の責務を明文化し、いじめへの迅速かつ適切な対応などを定めたものです。

白井議員の本会議での答弁



いじめ問題PTで座長として語る白井県議

文教常任委員会

質疑から

白井委員 障害者が使える県内の施設について、県として調査しているのか。

体育課長 障害者が使える施設は、千葉県障害者レクリエーションセンターが詳細に調査をしています。現在、体育課で行っている調査は、障害者の利用が可能か、不可能かについての調査にとどまっております。

白井委員 総合スポーツセンターの体育館で、車イスバスケット等が実施できない理由は何か。使えるようにすべきではないか。

体育課長 スポーツセンターの体育館については、県内の大規模な大会が行われています。車イスバスケットは床を破損させるため、現在のところ、車イスでの利用はお断りしております。

なお、センター内スポーツ科学センター4階アリーナでは共同利用は可能になっています。

千葉県障害者レクリエーションセンター

障害者の体育施設利用を訴え!

予算委員会質疑から

白井委員 人間としての尊厳を持つた中で、終末期を迎えたいと思っているのは、私だけではないと思います。しかし、不慮の事故や生前の家族の話し合いが行われないがために、本人が望まない延命治療が行われるケースがたくさんあります。

昨年度の県民意識調査によれば、自分の延命治療を望む人はわずか3%です。それに対し、自分も家族も含め、延命治療を望まない人は7割以上に及んでいます。昨年度の県民意識調査を踏まえて開発した啓発プログラム

白井委員 特別支援学校で学校開放は何かあるか。障害者に対しては開放しているのか。

体育課長 5校が体育施設の開放をしています。

白井委員 解放している5校では、車イスも利用できるのか。

体育課長 どのような団体が使っているかなどの状況については把握していません。

特別支援学校の体育館を、車イスなどの障害者の方が利用できるようにしていきたい。

白井委員 終末期医療の本人の意思を示すためにも、保険証または免許証への掲示をできるような取り組みを検討していただきたい。

終末期医療のあり方

白井委員 人間としての尊厳を持つた中で、終末期を迎えたいと思っているのは、私だけではないと思います。しかし、不慮の事故や生前の家族の話し合いが行われないがために、本人が望まない延命治療が行われるケースがたくさんあります。

終末期医療の本人の意思を示すためにも、保険証または免許証への掲示をできるような取り組みを検討していただきたい。